

第63期（2010年10月期）日本語研修コース

鹿 島 央

1. 研修生

A. 大使館推薦（研究留学生、教員研修生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費留学生は、8ヶ国14名（韓国7名、インドネシア、エジプト、エチオピア、スーダン、パプアニューギニア、ベトナム、マレーシア各1名）で、うち7名は日韓理工学部予備教育生である。残り7名のうち、3名が教員研修生で、残りの4名が研究留学生であった。進学先は名古屋大学4名、愛知教育大学3名であった。今回の研修生の7名（日韓理工学部生を除く）の内、1名は中級以上の学習者であったため、全学日本語講座（IJ212）を受講した。

B. 学内公募（国費留学生）

今期も法学研究科から国費特別コース5名を受け入れた。その他に、JICA 長期研修生1名も受講した。

以上のように、第63期日本語研修コースは国費大使館推薦留学生6名、学内推薦留学生6名の合計12名でスタートした。ただ、法学研究科からの1名については、体調不良のため、第1回目の試験後から授業には出席できなくなった。

2. クラス編成

授業は、2クラス編成とし、専任教員2名、非常勤講師9名の計11名が担当した。

3. 時間割と日程

時間割は62期と同様である。

コースの日程は以下の通りである。

10月8日(金) 開講式、10月12日(火) 授業開始、冬季休業12月23日(木)～1月10日(月)、1月11日(火) 授業再開、3月2日(水) 修了式。春季休業中の集中日本語講座は例年のように、国際言語文化研究科の主催する日本語実習クラス（2月14日～2月25日）があった。

見学旅行は、2月28日(月)に宇治平等院、醍醐寺、平安神宮を見学した。

4. カリキュラム

今期の授業内容は、教科書を用いたカリキュラムは62期と同じであったが、例年最終週に行っていた「専門について発表する」というプログラムは行えなかった。前年度61期でも「専門について発表する」プログラムは行わなかったが、今期行わなかった理由は全く異なる。端的に言えば、学生間の差が大きく、日々の学習内容を大幅に遅くする必要があったからである。具体的な理由は、気候、ゼミ、新しい生活への不適応などによる日本語学習への取り組みが十分でなかったためである。

5. アンケート結果

(1) コースのプログラムの満足度

4段階で評価してもらった。「3:とても満足」から「0:まったく満足しない」で、11名中8名が「3」、2名が「2」、1名が「1」の評価であった。

(2) 自身の学習成果への満足度

4段階の評価で、「3:とても満足」から「0:まったく満足しない」。14名中2名が「3」、4名が「2」、5名が「1」の評価であった。この結果から、自身の学習成果にはあまり満足していない傾向が窺えることは、62期とは異なっていた。「1」の評価をした5名のうち、4名は、日本語が、コース開始時に期待していたよりできるようになったと回答し、他の1名は期待していたよりずっと低いレベルであったと回答している。このことから、期待していたよりはよかったが、さまざまな理由から思うような成果があらなかったと考える学生が比較的多くいたことが分かる。

6. まとめと問題点

今期は、ゼミなど専門の授業の関連でよく休む学生がいた。この問題は例年あるものであるが、今期は特に多かった。ゼミ以外でも、気候になじめず、体調を崩しがちな学生もあり、たびたびの欠席が他の学生の学習意欲をそぐ結果にもつながったことは確かである

う。1名については、5課終了のテスト以降から出席ができなくなり、個人的な対応を試みたが音信不通で、研究科の留学生担当教員と連絡をとり様子をみることにした。早めの対応もできないケースがあるので、指導教員、留学生担当教員との連絡を密にする必要性を改めて感じた。